

2020年度 釧路市立高等看護学院 自己点検・自己評価結果報告

厚生労働省の指針である「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書に基づき、自己点検・自己評価委員会を発足し、教職員を対象とした評価を行った。

評価は「Ⅰ. 教育理念・教育目的」「Ⅱ. 教育目標」「Ⅲ. 教育課程経営」「Ⅳ. 教授・学習・評価課程」「Ⅴ. 経営・管理過程」「Ⅵ. 入学」「Ⅶ. 卒業・就業・進学」「Ⅷ. 地域社会／国際交流」「Ⅸ. 研究」の9カテゴリー106項目に基づき、教職員を対象に5段階リッカート尺度（「そう思う：5点」、「ややそう思う：4点」、「あまりそう思わない：3点」、「そう思わない：2点」、「わからない：1点」）を用いて点数化し、平均値を示した。結果については資料1参照。

「Ⅰ. 教育理念・教育目的」「Ⅱ. 教育目標」は前年度に引き続き概ね肯定的な評価となった。2022年度のカリキュラム改正に向けて、学生観も踏まえ、社会情勢やニーズに合わせたものとなっているか評価を行った結果であると考えられる。今後も地域社会に貢献できる看護師育成の方針のもと、教育活動を行っていく。

「Ⅲ. 教育課程経営」は概ね肯定的な評価となり、前年度と比較し平均点も上昇している。今年度は新型コロナウイルスの影響により、研修などの参加が行えないこともあったが、オンライン研修などを活用して教員の自己研鑽の機会を設けていたため、今後も継続していく。

「Ⅳ. 教授・学習・評価課程」は概ね肯定的な評価となった。項目1については、前年度の平均点と比較し0.3ポイントの上昇となったが、授業計画の整理などを行う中で、各教員内で授業内容についての理解が深まったためと考える。項目4については例年平均点が低値となる傾向にあったが、現在カリキュラム改正に向けて授業内容の重複などの整理を行っている状況である。今後も3年間で学習を発展させながら進めていけるようにカリキュラムを作成していく必要がある。項目11、12については、教育目標に合わせた学年別到達目標の評価方法をルーブリック評価にて実施しているため、その結果を元に教育目標の評価を行い、学生指導につなげていくことが重要であると考えられる。

「Ⅴ. 経営・管理過程」は平均点が4.4点と前年度に引き続き低値であった。項目9～12については、教員それぞれが財政面や整備計画について関心を持ち、情報を共有する場を設けていく必要がある。また、校舎の改築が終了し、学習室の整備や利用しやすい実習室など学習環境を整えている。新たにハイブリッドシミュレータ（看護実践モデル人形）を購入したため、学習活動に活用する予定である。今後も様々な側面において学生の学習を支援する体制を構築していきたい。

「Ⅵ. 入学」は概ね肯定的な評価であったが、今後はカリキュラム改正に伴って新たに検討したアドミッションポリシーのもと、入学者の選抜や、その後の状況の分析を行っていく。

「Ⅶ. 卒業・就業・進学」は平均点が4.0点と低値であった。当校の卒業生は多くが実習病院の市立釧路総合病院へ就職しており、卒業生の状況については概ね把握しているが、統計的な分析ができていない現状がある。就職後の活動状況について調査を行うため、現在実施している臨地実習指導者会議を活用し、看護基礎教育へのニーズなども把握した上で在校生への教育に活かしていく必要がある。

「Ⅷ. 地域社会／国際交流」については平均点が4.0点と低かった。例年行っていた地域交流のイベントなどのボランティア参加や施設見学が行えず、地域で生活する人々について理解を深められる場面が少なかった。その学びを補えるよう、今後も同様の状況が続くようであれば、オンラインなども活用した学内での講演や研修を充実させていく必要がある。

また、海外から帰国して入学を希望する場合においては、他の受験生同様に現在行っている入学試験を実施してもらうことになるが、試験問題や入学後のプリントなどの配布物にルビを振るようにするなど、配慮をしていく。在学中の学生が、留学や海外での就学を希望した場合についても支援する体制を作っていけるよう、教職員自身が海外での活動に関する知識を身に付けていくことが必要である。

「Ⅸ. 研究」については平均点が3.2点と前年度同様に低い結果となった。研究についての関心は向いているが、活動を支援する体制が構築されていないことが要因としてあげられる。また、看護教育に関する研究の取り組み、および学会での発表は行えていない。研究に取り組む教員の講義時間数の調整や休暇の調整なども含めて環境を整える努力を今後も行っていく必要があると考える。